

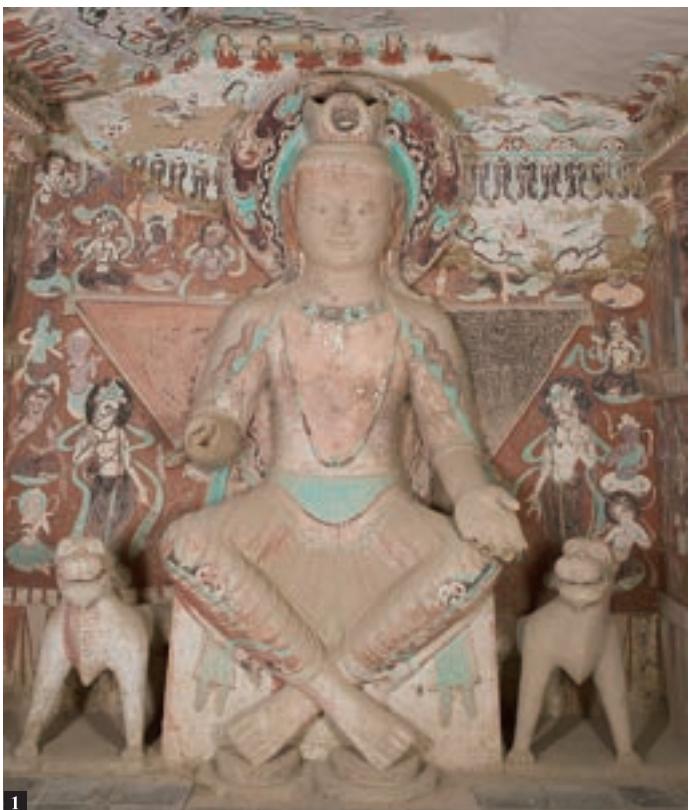
みろく — 終わりの彼方 弥勒の世界 —

Message from the Future: The Exhibition of the World of MIROKU

2021年9月11日[土]—10月10日[日] 東京藝術大学大学美術館(台東区・上野公園)

[主催]東京藝術大学、平山郁夫シルクロード美術館、日本経済新聞社 [共催]敦煌研究院、龍門石窟研究院、麦積山石窟芸術研究所、甘肃炳靈寺文物保护研究所 [特別協賛]株式会社ミロク情報サービス [助成]公益財団法人関西・大阪21世紀協会、一般社団法人東京俱楽部、公益財団法人文化財保護・芸術研究助成財団、藝大フレンズ賛助金 [企画制作]東京藝術大学COI拠点・ユーラシア文化交流センター





釈迦佛入滅。この暗く沈んだ世界に救世の光をもたらす未来佛・弥勒。東アジアで広く親しまれ、日本に深く浸透した弥勒は誕生の地ガンドーラから時空を超え、交易と仏教伝来の道シルクロードをたどってヒンドゥクシュを抜け、天山を越え、海を渡って遙か東方の日本に至っています。

6世紀、その中継地となったアフガニスタンのバーミヤンの磨崖に、像高55メートルの弥勒の大仏(西大仏)が刻まれ、多くの人々の信仰を集めています。しかし、あいつぐ戦乱の中で、バーミヤンの仏たちは破壊され、往古の姿を失ってしまいました。

本展では、ガンドーラとアフガニスタンの弥勒菩薩像、スーパークローン文化財の技術をもって原寸大復元したバーミヤンE窟仏龕天井壁画の《青の弥勒》を中心に、スーパークローンの敦煌莫高窟275窟交脚弥勒菩薩像、バーミヤン東大仏天井壁画《天翔ける太陽神》、法隆寺金堂9号壁を一堂に会し、弥勒の道を辿ります。

本展は「東京藝術大学アフガニスタン特別企画展」(2015年)、「素心伝心—クローン文化財 失われた刻の再生」(2017年)に続く、文部科学省が推し進める「革新的イノベーション創出プログラム」事業の成果発表の場となる展覧会です。

開催概要 [会場] 東京藝術大学大学美術館3F

[会期] 2021年9月11日—2021年10月10日

休館日:月曜日、9月21日(火)

*ただし9月20日(月・祝)は開館

[開館時間] 10時—17時(入館は閉館の30分前まで)

オンライン国際シンポジウムも開催!

「弥勒の道からのメッセージ

～スーパークローン文化財で甦った
バーミヤン「青の弥勒」は何を語るのか～

2021年

9月21日[火]

13:00~16:30

*シンポジウムの詳細は
公式サイトをご覧ください

チケット情報 一般: 1,000円

※当日窓口販売のみ ※前売券の販売はありません
※高校生以下及び18歳未満、障がい者手帳をお持ちの方(介護者1名を含む)は無料

アクセス ○JR上野駅(公園口)、東京メトロ千代田線根津駅(1番出口)より徒歩10分
○京成上野駅(正面口)、東京メトロ日比谷線・銀座線上野駅(7番出口)より徒歩15分
※当館には駐車場はございません。

お問合せ

ハローダイヤル
050-5541-8600

公式サイト

<https://www.mirokuten.com/>
右のQRコードからもアクセスできます。



※ 本展は事前予約制ではありませんが、今後の状況により、変更及び入場制限等を実施する可能性がございます。

写真: [表]バーミヤンE窟仏龕及び天井壁画《青の弥勒》想定復元／東京藝術大学 [裏]①敦煌莫高窟第275窟 弥勒菩薩交脚像／敦煌研究院文物数字化研究所制作、②③弥勒菩薩坐像／平山郁夫シリクロード美術館蔵、④⑤「青の弥勒」制作風景と模型／東京藝術大学

